



## 今年も梅のシーズンが到来！ 京浜地区3市場で「ぐんまの梅フェア」を開催！

### 令和元年度ぐんまの梅フェア

- 期日：5月31日(金)
- 場所：京浜地区3市場（大田：東京青果(株)、豊洲：東京シティ青果(株)、横浜：横浜丸中青果(株)
- 主催：群馬県共計生梅運営委員会
- 内容：群馬県産「白加賀梅」を使用した梅ジュースの試飲、電害周知用ポップ等の配布

### 群馬県産生梅の出荷始まる！

群馬県での梅の栽培面積は約 967ha であり、群馬県で最も栽培面積の多い果樹となっています(H29年現在)。全国で見ても、栽培面積・出荷金額ともに和歌山県に次いで全国 2 位の産地となっています。また、平成 30 年における都中央での群馬県の占有率は 21.6 % と和歌山県に次いで高く、「白加賀」の産地として市場からも注目されています。

今年については、梅は新元号「令和」の出典である万葉集の「梅花の歌」になぞらえて、縁起物としての需要も期待されていました。しかし、5月4日の降雹により非常に大きな被害を受けてしまいました。そのような中でも、生産者や農協、各市場の努力により、本県の共計生梅は5月27日(月)に東京青果(株)で初入荷となりました。

### サンプル展示やポップの配布により、 雹害果の理解促進を図る！

群馬県共計生梅運営委員会は、群馬県産の生梅の出荷最盛期に向けて5月31日(金)に京浜地区3市場（大田市場、豊洲市場、横浜中央卸売市場）で消費宣伝のPR活動を行いました。

今年については、降雹による被害が非常に大きいため、「雹害果」といった規格を設けて、被害を受けた果実についても可能な限り出荷されています。「雹害果」については、雹が当たった部分に傷がついているため見た目は劣りますが、梅酒や梅ジュースの材料としては、通常の梅と変わらず使用することが可能です。今年の消費宣伝では、市場関係者の「雹害果」に対する理解を促進するため、例年行っている群馬県産「白加賀梅」を使用した梅ジュース（JAはぐくみの白）の試飲や「白加賀うめレシピ」のリーフレット等の他に、JA全農ぐんまが作成した雹害周知用のポップの配布や「雹害果」のサンプルの展示も行われました。

### 市場関係者からは応援の声多数！

会場を訪れた市場関係者からは、「雹が降ったらしいが大丈夫か」「群馬の梅を売らせていただいている。しっかり販売することで応援したい。」など、産地を気遣う声が寄せられ、群馬県産生梅の市場での人気の高さを改めて感じることができました。また、展示されたサンプルを見た市場関係者からは「これなら梅酒やジュースには使える」「傷については仕方が無い」など、「雹害果」に対する理解を示す声が聞かれました。なかには、「雹害果によって、梅酒や梅ジュースを作るハードルが下がり、新規需要の開拓に繋がるのでは」など、前向きな意見も聞かれました。消費宣伝に参加した生産者からも「今年は厳しい状況であるが、可能な限り出荷を行うことで、来年の販売に繋げていきたい」など、非常に前向きな意気込みを聞くことができました。

生梅の販売期間は1ヶ月程度と非常に短期間となっており、この期間に積極的な消費宣伝活動が行われています。今年については、通常の消費宣伝活動に加え、市場関係者や買参人等に雹害の影響や「雹害果」についてしっかりと説明を行い、理解を促進することが重要になると考えられます。

ウメ出荷量上位10県(H29)

		栽培面積(ha)	出荷量(t)
和歌山		5,000	51,700
群馬		967	4,720
奈良	良	308	1,810
長野	野	441	1,370
三重	重	251	1,180
神奈川	奈	365	1,150
福井	井	492	968
山梨	梨	392	932
福岡	岡	296	821
宮城	城	414	807
全 国		15,100	75,600

出典：農林水産省 作況調査



横浜丸中青果(株)での様子



雹害果の様子



配布された雹害周知用ポップ